



Good News for Japan **とぎのこえ**

あなたを知っておられる神



平成二十六年八月一日発行
昭和二十二年一月二十四日(第三種郵便物認可)
明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

添田 美和

「夏が来れば思い出す」という歌がありますが、私は夏生まれなので、夏が来ると「ひとつ年を重ねるのだなあ」と思います。人生は、色々なことがマインナスされていくもの、引

き算だ、との捉え方がありますが、私はずっと以前から、年齢は重ねていくものだと感じていました。たとえマイナスと思えることも、年を重ね、時が経てば、すべて意味のあることと思え

る経験を私自身がしているからです。(私の目には無駄と思えたことも、神様のご計画なのだろう)と。とはいえ、何が起るのか、予測できないのが人生です。精神療法を中心とする内科医であったポール・トゥ

ルニエは、著書『人生の四季』で、人間の生涯は絶え間ない発展途上にあること、そして人生には誰しも必ず経なければならぬ時期があつて、そのそれぞれの時期ごとに神様の計画が定められています。これは聖書の真理に重なる言葉です。

「何事にも時があり天の下の出来事にはすべて定められた時がある。……神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終りまで見極めることは許されていない。」(コヘ

レトの言葉3章1、11節) 六年前、私は突然、日本人には珍しい皮膚がん、中でもまれな、悪性度の高い進行性細胞がんの告知を受けました。その時、それらの告知を大きな驚きもなく、冷静に受け止めることができ

ました。それは、目に見えないけれども大きな神様の存在と力に支えられていること、声としては聞かえないけれども周りの人々に祈られていることを知っていたからです。病気になる前の情報を得、手術と、最善の治療を通して、多くを学ぶ貴重な時間が神様のご計画ならこの病もきつと意味のあること。私がこの世に、まだ必要と神様が思われるのなら、生かしてください」と信じていました。もちろん、病気のことを知るほど、(死が近いのか)と覚悟もし、人間の肉体が弱いことを十分に理解しました。けれども、神様は、この世に生き続けることを得させてくださり、今は元気に過ごしています。病気の告知から、現在までのこれらの経験に、神様は不思議な御業、奇跡を見せてくださったのでした。

神様と出会い、イエス・キリストの愛と救いを知るなら、人生のあらゆる状況の中にも希望を見いだし、心に平安をいただくことができます。ぜひ、救い主イエス様を信じてください。

神様はあなたのことをすべて知っておられます。神様はあなたを心から深く愛しています。あなたが、神様の愛を受け取ることができまますよう、お祈りいたします。(救世軍士官(伝道者))

「神のこころの奥底にきざまれたあなたの名をたとえ消そうと試みてもなお深くきざまれる(おいかえし) 神はあなたを心にとめその名を覚えていて神をうらざるその時にもなお神は愛される 三希望も明るい未来も考えられない時に悔いるあなたを迎え入れて心をあらたにする

「一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。」

「一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。」



<インタビュー>

本当の平和・平安を伝えたくて

小島 勇さん 清子さん



栃木県・那須高原。登山や避暑、行楽のため、多くの方がこの地を訪れています。ここでペンションを営む、クリスチャンのご夫妻をお訪ねしました。

「ここは、すばらしい景色の中にありますね。」

勇 はい。ペンションの前は牧草地で開けていますし、遠くに那須連山も望めます。すぐ近くには那須サファリパークがあり、六〜七月には、蜜を見ることもできるんですよ。

「自然が豊かなんです。ここにただ座っているだけでも癒されます。」

清子 皆さん、ここに来られ

た方はそう言ってくださいます。神様が造られた自然の中で日常を忘れて、このペンションで心も体もリフレッシュしていただければ、と願っています。

「このペンションを始められて、どのくらいになりますか。」

勇 一九九八年からです。今年で十六年になります。それ以前はサラリーマンをしていました。他の大多数の方たちと同じ、いわゆる「企業戦士」で、家には寝に帰るだけといった生活でした。仙台、大阪、名古屋など、ずいぶん転勤もしました。家のこと、子どもたちのことは、家内に任せっきりでした。ただ、日曜日は教会に行く、ということだけは守っていました。

「では、ペンションは、勇さんの定年後に始められたのですか。」

勇 私は定年を待たず早期退職しました。会社時代、私がクリスチャンだということ、心の病になつた人を任されていたこともあり、心理学の勉強をしたり、「いのちの電話」のボランティアをしたりし

ていました。とても充実していましたが、ある時、これからどうしようか、と家族で話す時がありました。山登りが好きな息子は山小屋をやりたいと言いました。私は、田舎で家庭菜園をしながら、家庭集会を始め福音を伝えたい、という願いがありましたから、「山小屋をやるんだったら、ペンションをしたほうがいいんじゃない?」ということになったのです。

「どうして那須だったのでしょうか?」

勇 何箇所か場所を見に行ったんですけど、寒い所は避けたいので、東京に友人がたかくさんいるので、あまり遠くない所ということで、那須に……。でも、ここは標高が高く、仙台より寒いんです。笑)

ペンションを始めるとしても、全くの素人で、土地探しもよくわからずにしていました。この土地は、まだ水道が引かれておらず、だれも手を出さなかつた場所でした。そんなこととは知らず、買ってしまつたのです。でも、建築をしていく最中、たまたま水道が引かれることになり、本当に助かりました。神様が守ってくださつたのですね。

「ペンションを十六年なさつてきて、いかがですか。」

勇 武士の商法で、経営も何もわからないまま始めたので、大変なこともたくさんありました。でも、今まで続けることができ、ここに来られる多くの方々とすばらしい出会いをさせていただいていることに、感謝しています。ただ、まさか私がパンを焼いたり、ケーキを作ったりするようになるとは、思ってもみませんでした。

清子 「おいしい」と、お客様に評判がいいんですよ。主人は、「料理は科学だ」という言葉を頼りに、資料を集めて研究し、きつちり計ってパンやケーキを作っています。料理は私が担当ですが、パンとデザートは主人の分担になっていきます。粉は北海道から取り寄せ、料理には、地元で取れる新鮮な材料、添加物の入っていない調味料を使っています。

ペンションの働きは、神様が私の涙を見てくださつて、私の小さな手でできることを与えてくださったもののような気がしています。

「とおっしゃると?」

清子 三十年ほど前になりますが、犬養道子の『人間の大地』を読んだんです。ベトナム難民の漂流の記事で、海賊に犯される娘の悲惨さに、娘をもつ母として衝撃を受



勇さん手作りのパンに新鮮な野菜をのせて

け、三日間 泣いてしまいました。泣き終わった後へそこに行けには行けなくても、ここでできる事をしよう。クリスチャンが増えれば、その祈りは海外に届くと考えました。それで、戸別訪問や、公園で紙芝居をしたり、私の中に変化が起りました。

「行動力がおありになるんですね。」

清子 いいえ。私の心は痛んだ。ただ、それだけです。もし娘が襲われたら母親は命がけで守るでしょう。

まず伝道のために考えたことは、お友達づくりから、と気がつき、転勤先でそのコツを覚ええました。公民館活動に参加すること! それぞれ二十人ほどのクラスの中に一人、必ず気が合う人がいますから。「私はクリスチャンで、家庭集会をしています」と自己紹介をします。

今は、ペンションで精一杯のおもてなしをして、トラック(伝道用バンフレット)を渡し、関心をもたれた方には、近く



—キリスト教にふれていかがでしたか。

の教会を調べてお知らせしています。
—さて、お二人は、どのような経緯でクリスチャンになられたのですか。
勇 私は小学生の時父を亡くし、それ以後、栃木県の田舎で育ちました。キリスト教とは無縁な所でした。母子家庭だったので、中学を出ると、東京で働きながら夜間高校に通いました。
その後、三年遅れで大学に入りました。そろばん塾のアルバイトをして学費を得ていたので、大学の三年までは授業とアルバイトだけの日々でした。四年になると授業数が減って、ポツと時間が空くようになりまし。その時、初めてキリスト教に出合ったのです。学内で、キリスト教の集いの看板を見て、ふらふらと入ったのが最初でした。聖書研究会のサークルでした。ここで、友人ができ、他の人たちとも良い人間関係を築くことができました。

—清子さんはどのように？
清子 私の家庭は争いの絶えない家庭でした。中学三年の時、転職する父と新潟から東京に出てきました。多感な少女時代、よく絵を描いていました。美しい故郷はいつも心

勇 聖書で言われている平和イエスの平和こそが真実であると、気づきました。当時は安保問題で世間が騒然としている時で、常に戦争や平和ということを考えさせられていましたから。
イエスの教えは、世間の常識や科学とは違う次元のものです。
「心の貧しい人々は、幸いである、……悲しむ人々は、幸いである、……」(マタイによる福音書 5章3〜4節)
と、逆説的です。目に見えないことではなく、見えないことの中に真実があり、幸せがあるのだと知りまし。そして、イエスの言葉だけでなく、信仰の先達者たちの生きた証しに接し、私はイエス・キリストを信じてクリスチャンになりました。人生観、人生の目的が変わりました。(お金や地位を得るためでなく、聖書をモデルにした歩みをしよう)と願うようになりまし。



—ペンション名が「シャローム」平安を意味するヘブライ語という理由がわかりまし。
ところで、ご結婚についてですが、勇さんと教会で出会われたのですか。

の中にあり、(あの青空のようなきれいな心、平安が欲しい)と、心の中で叫んでいました。ある時、しつこく誘われてある宗教の集まりに行つたことがありまし。入り口に立つて二十数人の顔を見回した時、私が求めている心の持ち主の目ではない、と直感し、泣いて帰りました。その後まもなく、YMCAの絵画教室に参加したことから、キリスト教会に行つてみようと思ひまし。それは十二月で、世のクリスマスとは違う清楚な空気に、安らぎを感じまし。(私が長い間求めていた平安がここにある。)その時も直感したのでした。その後、それほど日を置かず、私はイエス・キリストを信じて、洗礼を受けまし。

—お二人のこれからの抱負をお聞かせください。
勇 このペンションがもつと用いられることを願つています。宿泊や私たちが企画する集いの他に、那須の地でおこなわれているキリスト教の伝道の働きや啓蒙活動の会場として用いられたい、と思つています。また、私は現在、栃木県の実業教育オビニオンリーダーという、お母さんたちに子どもとの接し方を教えるボランティアをしています。ひきこもりなど心の病は、親との関係が大きく影響しているんです。子どもが小さい時に、親がどのように接するか、ということはとても大事です。今はグループで学びながら活動していますが、いずれは、このペンションを「癒しのカフェ」というような場にして、働きを進めていきたく願つています。

清子 はい。紹介してくださる方がいて……。好みのタイプではなかったのですが。(笑)
勇 私は、すぐ(あ、この人なら!)と、感謝してお話を進めていただきました。(笑)
それから、今お話ししたような経緯で現在に至るのですが、一男一女を与えられ、それぞれクリスチャンホームを築いてくれることを、心から感謝しています。



—清子さんは？
清子 今まで夢中でした。多忙な現代社会で、毎回、家庭集いに新しい方を招くことは峠を一人歩くような心境の時も。けれど不思議な事が……。外出時は、海外の過酷な状況下の子どもたちを思い、「きょうを大切に」と祈つて向かいますが、必ず感動の出会いがあるのです。しかし当日は欠席が出て半数になることがしばしば。後日、四方に散在する人々を訪ねて何か読み物をお届けすることも、生活のリズムになつています(学生時代から数える数十人がクリスチャンになりました)。
一方「できる事を」を motto に楽しくトライしています。子ども会のためにフォークダンスを習つたり、家庭集い後のベリダンダンスは若い層に人気なので、ちよつとかじ

「愛には恐れがない」(ヨハネの手紙一 4章18節)
はとも大きく、つい忙しく動き回り、祈りは車の中……。反省しています。もつと静まり、祈りつつ、自然体で、神様の愛を周りに届けられたらと願つております。
—私の近くの救世軍を紹介してください。
—キリスト教についてもっと知りたいです。
—「ときのかえ」の購読を申し込みます。
—住所

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブリス 大将 アンドレ・コックス (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 勝地



世界をみつめて

〈ブラジル〉W 杯会場での伝道活動



2014 年 F I F A ワールドカップ (W 杯) の開催地ブラジルで、北アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリアの各地から集まった、60 人のボランティアによる伝道チームが活躍しました。メンバーは、試合のおこなわれる 12 の内の 8 つの町に行き、現地の救世軍と協力して、世界中のサポーターたちと積極的に交流しました。ポルトガル語と英語で書かれた、W 杯のための『ときのこえ』が発行され、紙面には、2002 年 W 杯で優勝した、ブラジルチームのディフェンス、通称ルシオ (ルシマール・ダ・シウヴァ・フェレイラ) のインタビューを掲載。ルシオは、「優秀な選手と共に、素晴らしいチームで競技ができるよう、神様が与えてくれた賜物一才能に感謝しています。けれども、個人的な幸福と満足の源は、聖書の御言葉どおりに行動することです。『あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ』と聖書にあるように、イエス様を信じ、信頼する時にこそ、人生に大きな勝利を得るのです」と語っています。



性的人身売買への反対運動も展開されました

W 杯に先立ち、ブラジルの救世軍の青年は、性的人身売買に反対する運動を展開しました。W 杯の開会式会場であるイタケラ・スタジアムの周辺では、近年、児童買春と性的虐待が増加しているとの報告を受けて、青年たちは、バーコードを首にかけ、「黙っていることに何の価値がありますか？」とポルトガル語の看板を掲げ、街頭でアピールしました。

〈日本〉東日本大震災被災地復興支援リポート (続)

●宮城県女川町で、初めての聖別会 (礼拝)

6 月 22 日 (日)、東日本大震災によって大きな被害を受けた女川町で、初めて救世軍の聖別会がおこなわれました。仙台



仙台の信徒のファミリーによる賛美

小隊 (教会) の伝道者、信徒たちを中心に、救世軍の施設関係者も集い、礼拝の時をもちました。会場から聞こえる賛美の歌声に、礼拝をのぞく人もあり、聖書から、逆境の中にも、神様の救いのご計画がおこなわれる恵みと祝福が語られました。

●『危機対応 最初の 48 時間』日本語版出版

アメリカの救世軍で、災害支援コーディネーターとして活動しているケビン・L・エラーズ氏、クリスチャン・カウンセラー協会の危機対応チームコーディネーターであるジュニファー・S・シズニー氏共著による、『危機対応 最初の 48 時間 だれもが知っておきたい災害時のケア』(いのちのこば社刊) が、出版さ



出版記念セミナーの講師による質疑応答

れました。東日本大震災後、日本語版の出版が待望されていた本書。危機に陥っている人に、何が助けとなり、何が助けとならないかを知るための実際的なガイドラインとなっています。

6 月 28 日 (土) には、出版記念セミナーが、東京・御茶ノ水クリスチャン・センターチャペルにておこなわれました。

救世軍とは

The Salvation Army

プロテスタントのキリスト教会で、世界百二十六の国と地域で活動しています。創立者はイギリスのメソジスト教会牧師だったウィリアム・ブリス。一八六五年、ロンドンの貧しい人々、社会から顧みられない人々の物心両面からの救いを目指し、働きが始まりました。創立者の精神は今も変わらず、助けを必要としている人々のニーズに答えながら、神の愛を伝えています。日本での働きは、一八九五 (明治 28) 年に始まりました。その当初から、刑を終えて出てきた人々の保護や



様々な音楽に合わせて、タンバリンを動かす救世軍オリジナルの賛美スタイル

職業訓練、災害被災者支援、廃娯運動の推進、結核療養所の設立、子どもの保護など、社会福祉史に先駆者としてその足跡を残しました。現在は、四十五の小隊教会にあたる) と十二の分隊伝道所にあたる) 、二十の社会福祉施設、二つの病院 (ホスピス併設) を通じて働きを進めるとともに、街頭生活者支援や災害被災者支援など、様々な社会奉仕活動をおこなっています。

過去に学び、現在を見据え、未来にはばたく救世軍 120 年 150

来年 2015 年は、救世軍創立 150 年、日本で救世軍の活動が開始されて 120 年の記念の年です

日本では……120 周年記念行事を開催

2015 年 5 月 3 日 (日) ~ 5 日 (火)
救世軍を学ぶセミナー (仮称)

2015 年 9 月 20 日 (日) ~ 22 日 (火)
全国青年大会

イギリス・ロンドンでは……
創立 150 周年万国大会を開催

2015 年 7 月 1 日 (水) ~ 5 日 (日)

テーマ **全世界を贖う限りない恵み**

会場のザ・O2 (ロンドン)

発行日 毎月一日・十五日

定価 毎月 五〇〇円 (年六千円)

発行日 毎月 五〇〇円 (年六千円)

クリスマス特集号 (十二月一日号) 一部 一〇〇円 (年七千円)

一年分 二七〇円 (送料七五〇円)

振替 〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 勝地次郎

編集人 齋藤恵子

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番

電話 東京 (03) 三三七〇八八一

発行所 **救世軍本営**

印刷所 図書印刷株式会社

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

次郎 (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp